

国産靴のあゆみ、行田へ

幕末から明治時代にかけて欧米からもたらされた新しいものの一つに、洋靴があります。日本ではまず洋式軍隊の制服、すなわち軍靴として取り入れられたことから需要が急激に高まり、製造が始まりました。

日本初の靴工場は、西村勝三が明治3年（1870）東京の築地入舟に開業した「伊勢勝」です。西村は天保8年（1837）佐倉藩（現・千葉県佐倉市）の槍術師範の家に生まれ、支藩である佐野藩（現・栃木県佐野市）に仕えた後、脱藩して商人となりました。



「年季証文之事」(当館寄託 小川三郎家文書)

メリヤスや耐火煉瓦れんがの製造でも知られる実業家で、渋沢栄一と共に東京府のガス灯事業にも携わっています。

西村は20歳ごろに海軍伝習を志して佐野藩を脱藩しているのですが、当時のエピソードに行田が登場するものがあります。安政4年（1857）に長崎を目指す旅の途中で体調を崩した西村は、武州行田に住む叔父・西村玄堂を頼り、しばらく滞在したそうです。後世に編み込まれた西村の伝記『西村勝三翁傳』に見られるエピソードで、近代日本を支えた人物の足跡に行田が登場するのは非常に興味深いものです。

ところで、行田ではいつから靴が履かれるようになったのでしょうか。当館寄託の小川三郎家文書には、靴屋に関する資料が数点見られます。小川三郎家に宛てた「年季証文之事」の文面からは「靴職修業」の奉公人を当時の小川三郎家が受け入れていたことが分かります。少なくともこの文書が出された明治26年（1893）までには、行田で靴製造が営まれるようになっていたことが裏付けられます。本資料は11月23日(火)まで開催の企画展「足元から紐解く生活史」で展示中です。

(郷土博物館 岡本夏実)

はじめまして



令和3年1月生まれのお子さんを募集します

- 11月1日(月)～30日(火)に電話またはEメールで広報広聴課(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、12月2日(木)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



令和2年11月生まれのおともだち



岩崎 和ちゃん (持田)
令和2年11月25日生まれ
父・樹史さん 母・知佳さん
三人兄弟は
パパとママの宝物



清水 瑛太ちゃん (香里山町)
令和2年11月15日生まれ
父・優作さん 母・由衣さん
「うまれてきてくれて
ありがとう」



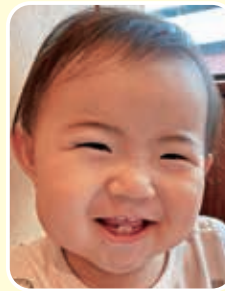
菅谷 眞斗ちゃん (長野)
令和2年11月2日生まれ
父・知博さん 母・仁美さん
「毎日幸せをありがとう♡
元氣いっぱい大きくなってね☆」



関口 楓捺ちゃん (南河原)
令和2年11月11日生まれ
父・裕也さん 母・由樹さん
「健やかに
すくすく成長してね!」



笠井 琴叶ちゃん (南河原)
令和2年11月5日生まれ
父・勇佑さん 母・早耶華さん
「生まれてきてくれて
ありがとう♡」



関口 琴巴ちゃん (城南)
令和2年11月4日生まれ
父・昌利さん 母・美穂さん
「元氣にすくすく育ってね♡
大好きだよ♡」

今月の表紙

11月8日は「いい歯の日」です。厚生労働省と日本歯科医師会では、80歳になっても自分の歯を20本以上保とうという「8020運動」を推進しています。歯が多く残るほど食事をおいしく感じられ、また全身の状態が健康でいられるといわれています。この機会に、自身や家族の歯の健康状態をチェックしてみましょう。



現在の友だち登録数 26,000人!

行田市公式LINEの友だち登録はこちらから!

● 市政・イベント・防災などに関する行政情報を発信します。

ホームページ <https://www.city.gyoda.lg.jp>



環境にやさしい植物油インキ

市報ぎょうだは再生紙を使用しています